今号の「モント事件簿」は「アーチ風評？被害事件」の謎を追う（8面）

MONTO
岩手県立大学
総合政策学部ニュース
Iwate Prefectural University
第3号2000.4.5

多彩な顔ぶれ大学院に
総合政策研究科スタート

総合政策学部はことしも百人余りの新入生を迎え、陣容をととのえつつあるが、この四月からはさらに大学院（総合政策研究科）がスタートする。

学部開設から三年目で、まだ卒業生がいないため、ことしは社会人や他大学の卒業生、外国人留学生を対象に志願者を募った。その結果、全国から二十人が応募し、うち十四人が合格した。卒業生を出していない大学が大学院を設置するのは、国公立大学ではじめてのことだ。

新設の研究科が目標としているのは、複雑化する現代社会の諸問題に広い視野に立って取り組むことのできる、高度な能力をもつ人材を育てることだ。それだけに、この課程で学んだ者は、地方自治体や企業、NPO、大学、研究機関など、多様な場でその専門的知識を生かしていくことが望まれている。

そうした要請にこたえるため、総合政策研究科には、現代社会の法と政策▽政策過程と政策分析▽経営・経済システム分析▽地域変動と住民生活▽防災と地域整備▽生態・景観と環境管理という六つのコースが用意されている。

ことしの合格者十四人の内訳は、社会人が十一人、大学と大学院の新卒者がそれぞれ一人、外国人留学生が一人。女性は五人で、うち社会人が三人。年齢をみると、六十代が二人、五十代が一人、四十代が四人、三十代が三人、二十代が四人で、熟年から青年まで広い世代にわたっている。社会人が多いのは、豊かな社会経験をもつ人びとが、大学院でさらに新しい能力を身につけ、役所や企業、地域社会のリーダーとして貢献してほしいという、地域に開かれた大学としての期待の反映とみることができる。

地方自治体の中堅職員、市議会議員、フリーライター、企業の幹部、警察の警部補、国際交流や地域環境の保存につとめてきた人……。社会人院生の経歴は、実に多彩だ。しかし、大学院を志望した動機は、社会人としての実体験から生まれた問題意識を学問の場で突きつめてみたい、という点で共通している。

自宅が県の文化財に指定されたのをきっかけに、社会的に有益な文化財活用の仕組みを考えてみたいという人がいる。会社経営の実際と理論のずれに対する疑問から、企業財務について研究したいという人がいる。ほかの研究テーマも、「地方議会における政策評価」「自治体行政への住民参加」「里山開発が自然開発に及ぼす影響」「エコミュージアムによる田園空間の創造」など、まさに日ごろの仕事や活動に根ざしたものとなっている。

総合政策研究科は当面、二年間の修士課程だけだが、その充実を待って博士課程も設けることにしている。

平成十二年度の入試を振り返って

三度目の入試が終わり、三度目の新入生が入ってきて、県立大学も大学らしくなってきた。

十二年度の入試の大きなできごとといえば、AO入試、編入学試験、私費外国人留学生特別選抜が加わったことと、大学入試センター試験の科目減である。

AO入試は、公立大学では全国ではじめてということもあり、受験生だけでなく、高校の進路担当の先生方にもかなりの戸惑いがあったように見受けられる。

編入学試験、私費外国人留学生特別選抜は、大学の門戸を広げるという点で意義深いことである。しかし、前者については、単位の読み替えの難しさ、後者については、留学生に対する日本語教育の体制が整っていないという問題が明らかになった。

公立大全国初のAO入試導入
センター試験の科目減の影響か
前期日程の受験生が倍増

十二年度の最大の関心事は、大学入試センター試験の科目減が受験生の行動にどのように現れるかであった。反応は予想以上のものであった。得意科目を中心として多様な科目選択が可能になったことから、一般選抜前期日程は五・三倍、後期日程は九・三倍となった。特に、前期日程では、県内外からの受験生が一挙に二倍以上に増えた。

しかし、前期、後期で課されている「総合問題」「小論文」に対する受験生の取り組み方には若干の失望をおぼえた。課題文、資料についての読解が不十分であり、総合政策学部が求めている問題意識の豊かさ、分析力の深さといったものが表現されていないものが多かった。

総合政策学部の授業では、現代社会が抱えるあらゆる問題が扱われる。入試を振り返って思うのは、高校時代には、あらゆる問題に感覚をとぎすまして、総合的思考力を身につけてもらいたいということである。

2月25日の前期日程試験には、雪の中、昨年に倍する（総合政策学部）受験生が挑んだ

増田知事、二度目の特別講義
「岩手県の総合計画」に活発な質問

2回目となり、増田知事にも学生にもゆとりが感じられる

二月二日、増田寛也・岩手県知事を講師に招き、総合政策学部の特別講義がおこなわれた。これは昨年に続いて二度目で、今回のテーマは「岩手県の総合計画」。計画の背景や将来の評価方法まで、自身の考え方をまじえて解説していただいた。

知事から講義を受けられるという県立大学ならではの機会。出席した二〇〇人の一、二年生は真剣にノートをとっていた。質疑応答の時間も、「東北ブロックにおける岩手県の役割」「経済情勢の変化と政策の実現可能性」「県民への周知方法」など、なかなか的を射た質問がつぎつぎに出た。

知事の講義は、学生たちにとって地域の問題を自分自身の問題として考える格好の機会となったようだ。講義の内容は、政策評価論（山谷教授）の試験で取り上げられ、地域政策講座でも総合計画についての専門演習を予定している。

「より良い岩手県にしたい」「もっと勉強しなければ」と「心に火がついた」学生の今後の成長のきっかけになるのでは、と期待している。

c o l u m n

風媒花

食中毒、麻薬中毒、アルコール中毒、ニコチン中毒、活字中毒……。中毒にもいろいろあるが、活字中毒はいささか性格を異にする。この病の特徴の第一は、完治不能にもかかわらず、患者の人生を豊かにすること。第二に、患者は中高年に偏り、若年層にはきわめて稀なこと。▼筆者のみるところ、県立大学では患者は当学部に多く、D教授などは、まさにその典型といえよう。ひそかに観察するに、教授が本を手にしていないことは、まずない。食堂はもちろん、バスの中でも、話しかけられないかぎり、活字を追っている。ご本人に確かめたわけではないけれど、トイレの中でもきっとそうだろうし、枕元には寝る前に読む本が積み上げられているにちがいない▼学生諸君には想像もつかないだろうが、終戦直後の楽しみといえば、読書とラジオくらいしかなかった。筆者も親にせがんで本を買ってもらうと、それこそむさぼるように読んだものだ。読み終わると友達と交換し、借りる本がなくなると家にある大人の本を片っ端から読みあさる。それが、当時の本好き少年のたどるコースだった。D教授もこうして、読書の楽しみを知り、活字のとりこになったのだろう。インクのかおりのする本を開くときの、あのドキドキした気持ちを、筆者はいまも懐かしく思いだす▼ある読書調査によると、小学生から中学生、さらに高校生となるにつれて読書量が減るという。大半の大学生もテレビには時間を割くが、活字を拾おうとはしない。そこで、授業のなかで何冊かの本を推薦し、読後の感想を提出させることにしている。教員としてうれしいのは、「本がこんなに楽しいものとは知りませんでした」と書きそえてくる学生がいることだ▼新設の総合政策学部大学院には二十人が応募し、十四人が合格した。かれらはまきれもなく、学ぶ楽しみを知る人たちだ。とりわけ社会人で大学院を目指した人たちは、さまざまな事情で働く道を選んだが、いつの日か、ところどころにもがいない。そしていま、ようやくそのときを迎えたのだろう▼学生諸君に望みたいのは、読む楽しみ、学ぶ楽しみをぜひとも自分のものにしてほしいということだ。教える側にも責任はあろうが、読書や学問はけっして苦行ではない。この二つの楽しみを知ったとき、君らの人生はかぎりなく豊かになるだろう。

父母座談会

子を県立大に送って、胸のうちは

創刊号と2号で、教員と学生の座談会を試みた。さて、パート3はどんな趣向で、と考えているうち、こんどは父母の意見を聞いてみたくなった。親と子の、あるいは世代の断絶がいわれて久しい。MONTO紙上で、胸のうちを存分に語っていただこうというわけである。三時間近くも続いた語り合いのなかで、強く印象づけられたのは、なによりも子どもたちへの、そして県立大学への期待だった。学生と教員はどうやら、重い宿題を背負わされることになったようだ。

●出席者

石川　敬子
菊池　薫
工藤　民男
佐々木あつ子
多田　寛
（敬称略）

●司会
平塚　明　助教授

「県立」が決め手に

司会　最初におうかがいしたいのですが、この大学を選ばれたのは、お子さんの意思だったのでしょうか、それともご両親からのお勧めとかそういうことがあったのでしょうか。

A　娘は第一志望は国立でしたけど見事にすべっちゃって。だけどね、今度県立のいいところができるみたいだからと、本人も受ける気になったわけです。

司会　そうですか。やっぱり県立ということが、大きな要素になったわけですね。

A　片親なもんですから、私立はちょっと難しかった。親に負担かけなくていい、と子どもも思ったんでしょうね。とってもいいところだ、と喜んで入学式から帰ってきました。

B　うちの場合は、本人も興味を持っていましたし、私もいろいろ車前に新聞なんか読んで、これからの時代に非常にマッチした学部だなということで。本人は目が迫ってきたら、最初の志望校がだんだん遠くなっていったせいもあるんでしょうけど、本命はここということで、受験したようです。

司会　総合政策学部に対する印象はどうだったんですか。

B　私、個人的に地域づくりに関わっているので、行政の人とか、地域づくりをやっている住民の方と話をする機会が多いんですが、地域で住民と一体となっている公務員の人たちを見てきました。そんなわけで、総合政策学部はこれからの新しい自治体と住民のあり方みたいなものを追求しているんだなという印象をもっておりました。本人も一応そういう方向の仕事に就きたいという気持ちを持ってましたから、親としても、入学できて良かったなという気持ちでおります。

司会／平塚明・助教授

C　今の入試のレベルだから、おそらくわが家の息子は入れなかった、と実は考えているんですよ。率直に言いまして、経済状態とかやっぱりあるわけですから、都会にやるっていうわけにもいかないし、そういう意味でもこの大学は私のところにとっては願ったり叶ったりだったなと思っているんです。

D　うちでは実は郵政省も受かったんです。本人ははじめ、郵政省のほうに行く気になっていたみたいです。でも、結局、先生も交えて話し合いをして、就職は大学を出てからでもいいんじゃあないかって、いうことになったわけです。郵政省に行ってれば、親は楽でしたが。

E　親としては教員がいいんじゃあないかと言ったわけですが、教員にはなりたくないと言うんです。そこで目的はあるのかと尋ねると、何もないって言うもので、それなら県内の大学だな、という話をしたんです。今からつくる大学だし、県は力を入れるだろうから、ちゃんと卒業した暁には、就職についても積極的にやってくれるはずだという思いがやはりありましたね。

司会　一年過ぎて子どもさんになにか変化はありましたか。

A　総合政策に入ってお母さん良かったよ、なんかわたし道が違ってきたなんて、なんかすごくやる気満々なんですよね。本当は本人は理系で、薬剤師になりたかったんですが。

司会　理系、文系っていうお話ですけれども、この学部は理の入り口で入っても、文の入り口で入っても、どちらの勉強もできるところだと思っています。これだけいろんな分野のスタッフも揃っておりますので。

入ってよかった！

D　県立大学に入って良かったのは、すごく明るくなったんですよ。友達がいっぱいできたって言って。いろんなところから学生さんが集まるでしょう。入ってみたら思ったよりおもしろい学校だってね。

C　大学に入ってから、うちもやっぱり友達が増えました。友達増えたのはいいんですけど、このごろは外泊して家に帰らない。しょっちゅう、クラブっていうかサークルが忙しくて。友達のところに泊まるのはいいんですけれども、迷惑にならないかって、それが気になっているんですけれども。

E　うちの子は五時に起きて、六時の電車で学校に出かけるんです。一年になったら、なにもかにも忙しくなったと言っていました。一年の時はある程度暇っていうか、余裕があったみたいなんですが。

司会　それでも、楽しそうにしてるわけですか。

E　ええそうです。不思議なんです。友達とかいろいろ恵まれたんじゃないでしょうかね。

B　先輩がいないっていうのもね、まあデメリットも確かにありますけれども、気分的に自由だっていうこともあると思うんですけどね。

石川敬子さん

A　だけど先輩がいないのが寂しいって言っていましたよ。先輩がいるとね、いろんなことで相談しやすい、先輩がいないと一人で悩まなければって。

司会　ああそうですか。その辺を考えてですね、私なんかもなるべく研究室に入って来やすいようにはしているつもりなんですけれど、やっぱり敷居が高いみたいですね、どうしてもね。

工藤民男さん

一期生のメリット

C　一期生だっていうことの連帯感っていうか、同志みたいな感じがある。すごく仲がいいなという感じするんですね、息子なんかみてると。高校の頃だと、クラブなんかでガチッとかたまって、それ以上人間関係が広がらないんですよね。それがいろんな組み合わせで、多様な付き合いをやってるというか、すごく高校の時と違って。

D　自己主張っていいますか、自分の考えをドッと言うタイプだったんですけどね、大学に入ってますます自分の考えをはっきり言うようになりました。レポート出さなくちゃいけないだとか、締めきりが間に合わないという時には、休みでもしっかり学校に行くんですよ。

B　さっき入学の動機で一つ言い忘れたんですけれど、うちでは運動クラブなんですが、一回生だからクラブの新しいユニフォームを自分たちでつくれるということが、本人の最後の決め手になったんです。

司会　たしかにおっしゃるように、一期生のメリットとデメリットがある。ほとんどの大学生は、教員よりもむしろ、先輩にいろいろ教わったり、助けてもらったりということがあるものですが、一期生にはこれがない。その分大変ですけれど、まあ逆にいえば、自分たちの思いどおりになることも多い。それから、教員と学生の数の比率は、三年生まで揃った今でさえ、一対六ぐらいなんですよ。そういうことも積極的にやっていこうというのが、この大学の特徴だと思います。

司会　ありがとうございました。

u　m　n

野生動物とどう付き合うか

野生生物保護学会大会開催される

由井正敏教授

自然や野生生物の保護に対する国民や県民の認識は高いが、今は実際にどのように保護し、あるいは管理するか、という具体策が問われる時期にある。このため、今から五年前に野生生物全般に関する保護管理方策を研究する国内最初の学会「野生生物保護学会」が発足した。学会の視野は国内にとどまらず東アジア全域に及び、会員は五百名を擁する。

平成十一年十月二十三～二十四日にかけて、岩手県立大学において本学会の第五回大会が開催され、約二百名が参加して熱心に発表が行われた。大会運営委員長は由井、会計事務長は幸丸政明教授、幹事には平塚明助教授ほかが当たった。

大会では、イヌワシや公園管理に関するポスター展示による一般発表のほか、大会シンポジウムとして「野生生物の保護・管理と地域―被害問題を中心に」、自由集会として「野鳥の生息環境の保護管理―注目種の生態と保護」、「ゼニガタアザラシの保護管理」、「イノシシとのつきあい方を求めて」、「生態系の保全とシカの管理」及び「ニホンザルの管理に向けて」をテーマに議論がたたかわされた。

大会シンポの内容は、国内でも先進的な管理対策をとる岩手県の五葉山一体のニホンジカ問題やツキノワグマの被害回避対策が中心だった。県内のシカやクマの保護管理については、長い調査期間を経て今日の科学的管理にたどり着いたものだが、今回の大会で一定の評価を受けたことは喜ばしい。しかし、被害農家やクマに襲われる恐怖心への対応など、まだまだ多くの問題を抱えており、学生諸君の積極的な研究参加を期待したい。シカの管理では、岩手県で日本最後の個体が捕獲されたオオカミの再導入によるシカ個体数管理の可能性が提案されるなど、今後は自然の仕組みを賢く利用しながら、野生生物との共存を図る方向が模索されよう。

今大会の日程は一年前に決まっていたのですが、なぜか大学祭と重なってしまい、総務や学生の皆さんにご迷惑をお掛けしました。しかし、大会参加者はかえって大学祭と学会の両方が楽しめてよかったという感想があったし、何よりすばらしい大学施設と周囲の自然環境に圧倒されたようだった。支援していただいた皆様に紙上を借りて御礼申し上げます。

野生生物保護学会では公開シンポジウムも開催された

菊池薫さん

意味では、とても恵まれた人的環境にあると思います。

D　先生方は学生一人ひとりっていうのは、把握できないですよね。中学校とか高校と違って、名前と顔が合わなくて、誰がいて誰がいないのかもわからないんじゃあないかな。顔くらい覚えてもらえよと言ってるんですけれど。

司会　実は意外とわかってますよ、意外と。ところで、お子さんとの間で世代のギャップを感じることはありますか。

B　個人的な話になっちゃうんですけど、この前、子供と初めて将来の話をしたら、新入類とか、宇宙人って言いますけれども、全然そんな感じしないんですよね。やっぱり大人になったなという感じで、減反政策のこととかなんかね、えっそこまで知ってるのかって思うような驚きがあって、けっこう話ができるんですよね。

E　世代の断絶とか、親子の断絶とか聞いてあんまり言うもんだから、こっちが神経質になって、これから親子の対話をさせていただきますみたいな形で、かえってきこちなくなってしまう。聞きたいことはストレートに聞けば、答えてくれるっていう感じがします。先入観を持たないことですね。

総合政策学部とは

多田實さん

司会　開学前と今を比べて、総合政策学部のイメージに、なにか違いがありますか。

B　総合政策学部っていうのは、私たちが学生の頃なかった学部だし、総合政策っていう言葉もなかったわけです。はっきり言って、どういうものかわかんないっていうのが最初で、行政マンを育てる学部というような、短絡的なイメージがありました。しかしいろいろ内容をみたりしているうちに、そんなものじゃないなということに、気がつきました。これからの生き方っていうか、環境問題とか、住民参加とか、いろんな要素を、総合的に学んでいるところだなあということです。単に公務員ばかりじゃなく、ほかの分野に行くにしても、これからの時代に必要なものを、十分身につけることができる学部じゃないかなっていうことを感じています。

D　学生に限らず会社でも何でも、こちらにはこういう意見があり、片方には相反する意見があり、これをどういうふうに調和をとっていくかということ、つまり一種のバランス感覚を養うえで、この学部は一番適しているんじゃあないかと考えているんですが……

C　大変失礼かもしれませんけれども、総合政策という名前からイメージするのは、私らの年代でいったら経済学部。イコールじゃあないけれども、ほぼ同義語かなっというふうに私は思っていました。今はだいぶ印象が変わりましたが……。

司会　総合政策っていう名前は流行ですよね。全国に似たような学部がありまして。中身はいろいろあると思うんですが。

A　総合政策学部ってなんでも屋かなって考えたりするんですが、いまだによくわからないんです。要覧を読んでみても、どうも自分の頭がついていかないっていうんですか。娘も学部を決める時に、結局他の学部は自分には合わないということで消去法で決めたんです。

D　行政なんか典型なんですけれど、これまでは万事縦割りでしたよね。世の中縦割りじゃあないよっていうこと、つまりいろんなものが関連しあっているっていうことを学ぶ学部だっていうふうに、私は理解してるんです。

E　情報処理ですとか、看護であれば、名前を聞いただけで即イメージが浮かびますよね。総合政策の場合、子どもたちが卒業した時に私はこういうのをやったと言えるものが、準備できるのかなあ、と。

先行き心配なこと

司会　就職に対する不安とか、大学に対する要望とかございましたら、自由に出していただきたいんですが。

A　四年経つと子どもたちは職場を求めていくわけですけれども、子どもたちが私は総合政策で学んできたから、こういうことできますよと主張したとしても、企業や役所が受け入れてくれるんだろうかと、それが心配ですね。

D　今の社会の中で、はたして総合政策学部で学んだ学生たちを生かせるのかな、という不安もあるんですよね。さっき言ったように、縦割りということで、垣根をつくってますからね。学生たちはたぶん、それをぶちこわして地域をよくしていくといった理想を持っていると思うんです、就職してからそのまま純な形で理想を持ち続けることができるかというと、そうはいかないでしょう。やっぱり世代間抗争を経なければ、ここで学んだことを生かせないんじゃないかな、というふうに私は思っているんですよね。

B　先生方も縦割りではなく、自分の専門分野を横断的につないでいくっていうことをやっていただかないと。そこら辺が総合政策っていうのが一つの流行で終わってしまうのか、実際これからの社会において生かされていくのかの別れ道になると思うんですね。

司会　就職の話が出ましたが、大学院という選択肢もあるんですよね。総合政策研究科というのがこの四月から発足しました。大学院にお子さんが行きたいと言ったらどうします。

A　あせって就職して、いやになってすぐやめるよりは、自分でやりたいことをやったほうがいい、お母さんそうさせて、と娘に言われちゃった。

司会　大学院も選択肢に入っているというわけですか。

A　そうです。やれるものなら、やりたいって。それだったら頑張りなさいよ、と言っているんです。

E　うちの子は寮がほしいと言っています。この四月からアパート借りることにしたんですが、寮があれば家計的にだいぶ助かりますからね。

C　昔は希望者が多くて、なかなか入れなかったんだけれど、今は空き部屋ができて維持費が大変だそうです。

D　今の若者たちが入りたいような寮にした場合、採算のとれる家賃設定をすると、一般と大して変わらないんじゃあないかという気がするんですけどね。例えばエアコン付けたり、シャワー付けたりしますとね。

A　もう少し通学の便をよくしてほしいと思います。盛岡までは列車がどんどんあるんです。盛岡から滝沢がないんですよね。せっかく岩手県としてつくった大学なのですからね。

E　通ってみたければもとてもダメだからって、結局下宿とか、アパートにしたっていう学生も結構いるようですよ。

B　うちもこの四月から借りることにしました。部活とか、どうしてもやりたいことがやれないんですって。

佐々木あつ子さん

学習環境の整備を

E　子どもが不満を言っているんです。レポートを書くのにコンピューターを自由に使えない、他学部ではいつでも使えるのに、って。普通に行くとパソコンできないからって、朝五時起きで出かけ、帰りは帰りで最終で十時になる。パソコンを打ちたい時には友達のところに泊まったりして……。

司会　確かに混んでいたり、土、日にメディアセンターを開けないとか、いろんな事情があって、不自由をかけているのは事実です。教員たちもなんとかしなければ、と考えてはいるんですが。

C　安いパソコンって、いくらぐらいするんですか。

司会　デスクトップだったら、十万円を切るセットがありますよ。ノートパソコンは割高ですが、十五万円を切るぐらいのものもあります。理想は学生一人ひとりに買ってもらうのが一番いいんですが、それはたいへんですよね。

C　ただ時代だからパソコンが必要だというのでは困る。パソコンがなぜ必要なのか、何にどう使えるのか、親も子も理解して買ってもらうということが大切じゃないかな。そうであれば、私は賛成ですね。

A　なんだかんだ言ってもあれは必需品ですもんね。

司会　入学した時、たいていの学生は、キーボードなんか全く触ったことがありません。コンピューターやったことありますって手を挙げる学生は、実はファミコンをやったということなんです。全然知らない学生に、私は最初の授業で、文字の入力の仕方と電子メールのやり方だけを教えるんですよ。一時間後にはもうお互いにメールのやりとりをやってます。若いっていうのはすごいと思います。だから、学生たちにもっといい環境を与えたいって思うんです。

B　携帯電話の通話料を毎月三分の一に押さえてくれれば、親はなんもも文句言わないですよ。毎月一万だもんね。年間十二万円なら、ディスカウントでパソコンが買えますからね。

司会　実は私も講義のたびにネットワークを使っているので、ネットワークを見られないと私の授業が半分わからないっていうことになるんです。

C　パソコンで打って、メールで送ることが義務づけられているとしたら、いつでも使えるという環境が一方になきゃあね。しかし、学校頼みばかりじゃあなく、父母も一端を負担しながら、環境づくりをしていくことも必要でしょう。コンピューターを使えなくて、単位落としたりしたら、それこそ大変だからね。

D　だけど、同じ大学の中でコンピューターを使う環境に格差があるとしたら、学校としては説明する責任があると思いますよ。

大学は競争時代に

B　新聞で岩手県内の五大学学長会議を設けて、単位交換をするという記事を読みました。どこの大学に入っても、他の大学の授業とか、講義がある程度受けられるという仕組みをつくるというんですね。大学はいまや熾烈な競争の時代に入りつつあります。学生の就職ももちろん大切ですが、大学自身もどうやって生き延びていくか、真剣に考えていかなくてはいけないというふうに思います。

司会　今日はいろいろとご意見をお聞かせいただいて、大変ありがとうございました。

学部ごよみ 1999.10-2000.3

10.23－24	野生動物保護学会第5回大会が本学で開催（幹事：由井先生）
10.23－24	大学祭（IPU Festa99）総合政策学部でも有機農法による農作物販売や各種展示を行い好評を得る。
10.29	アドミッションオフィス入試合格発表
10.30	編入学推薦入試
11.5	編入学推薦入試合格発表
11.27	推薦入試
12.2	岩手県工業クラブとの交流会
12.6	推薦入試合格発表
12.4	編入学一般入試1次試験
12.11	編入学一般入試2次試験
12.17	編入学一般入試合格発表
12.21	夢灯りプロジェクト'99「夢灯りの夜」開催。学内がホワイトイルミネーションで飾られ、イベントが催された。
12.22	文部省より本学大学院の認可書が交付される。これにより総合政策研究科が正式にスタート。
12.25－1.7	冬期休業
1.15－16	大学入試センター試験
1.27	後期授業終了
2.2	知事特別講義（詳しくは記事を参照のこと）
1.28－2.3	後期補講・集中講義
2.4－2.10	学部後期試験
2.10	盛岡市工業労政課による第1回盛岡市の企業等と岩手県立大学の産学官交流会の開催
2.25	前期入学試験
3.4	大学院入学試験
3.7	前期入試合格発表
3.9	広域行政研究会（座長：天野先生）の報告が発表される
3.12	後期入学試験
3.17	大学院入試合格発表
3.22	後期入試合格発表
3.31	学部後期成績通知

c　o　l

高スコア続出
第1回トフル実施

佐藤智子助教授

二十一世紀に活躍の場が用意されている学生達にとって、国際共通語としての英語運用能力を身に付けることは、世界にアクセスするために必要不可欠であります。総合政策学部では英語の重要性を認識し、平成11年度から学部全体でTOEFL（Test of English as a Foreign Language：英語を母国語としない人の英語能力を測る試験）に取り組んでいます。

第一回目ということで、初めての人でも受けやすいプレトフル2（Pre－TOEFL 2）を、昨年十二月八日に実施しました。夏休みを挟んでの練習が功を奏したのでしょうか、学生達は私達の期待に見事に応える成果を収めました。一年次生九十七人、二年次生八十四人が受験しましたが、五〇〇点満点のうちほぼ満点に近い四九〇点を筆頭に、四〇〇点以上が全体の三割強を占めました。当学部の平均は日本の四年制大学の平均をかなり上回り、ほとんどの講義が英語で行われているアメリカの大学の日本校と比較しても遜色ないレベルにあることが実証されました。

「総合政策学部長賞」が創設され、一年次生、二年次生のそれぞれ最高点を取った学生が細谷昂学部長から表彰されました。記念品の辞典を贈られた本人だけでなく、他の学生達にも大きな励みとなりました。

日本人が不得意といわれるリスニングの力を向上させるために、衛星放送はもとよりBBCやミージック・チャンネルなども自由に聴ける視聴覚室を学部独自に設け、学生がいつでも英語に接することができる環境も整っています。トフルの教材も配備され、これから二年間の学生の努力しだいではさらなる成果を期待することができると思います。

第一期生が社会に巣立つ2年後を見通して、岩手県、東北地方あるいは世界を舞台にして活躍できる学生の育成を目指し、学部一丸となって英語教育、国際理解に取り組んでいます。

学部長表彰を受ける最高点の学生

食ネタ

一人暮らし～自炊はつらいよ～

1「貧しい時に使える!?」謎メニュー集

「うなぎのたれをご飯にかけた」、「ごはん＋具なしみそ汁」、「ねこまんま」、「パスタ＋めんつゆ＝まずい」、「パスタ＋バター・シーチキン・のり＝うまい」、「青汁の素＋牛乳＝◎→青汁の素＋ヨーグルト＝絶対×」、「ひたすらふりかけご飯」、「『お茶漬け』の日々。某CMのように『うまそう』に食べる自分がいる」、「卵かけご飯」、「納豆ご飯」。

こんな感じのものが集まりましたが、あやしいものは「作らない・食べない・持ち込ま（せ）ない」の安全自炊三原則をお忘れなく。その方が賢明かも…。「ご飯を炊くとき、水を入れ忘れてカチカチの物体が!!」「賞味期限切れの物を食べ、お腹をこわした」という人もいましたから。

やはり、自炊は試行錯誤のサバイバル。

2「これさえあれば生きていける」食材アンケート

「米・卵・チーズ類」がベスト3。次点が野菜ジュース、ヨーグルト、納豆でした。野菜類では、キャベツ、じゃがいも、人参、玉ねぎ、ほうれん草。乳製品だと、牛乳、ヨーグルト、チーズ。麺類はそば、うどん、そうめん、カップラーメン、パスタが人気でした。その他では食パン、ベーコン、バター、バナナ、冷凍食品、ちくわ、お茶漬け、ケチャップ等が多かったです。

そして、よく作っているものはというと、「クラムチャウダー、野菜スープ」等の煮込み系、「チャーハン、野菜炒め」の炒め系の2タイプ。オムライスも意外な支持を得ました。「カレーライス」「うどん、そば、パスタ」はもはや定番。どうやら、一人暮らしの料理の極意は「簡単・速い・うまい」と見た!!

食費を減らすにはどうしたらいい？

何といっても1番の方法は自炊に限る!!

そして、あまりお金を持ち歩かないこと。コンビニに行くと、ついつい余計なものまで買ってしまいがち。

パンが食べたくてもお金がない時は、パン粉を食べてみては?! なかなかの珍味!! 米が少なくなってきたらおかゆにするのもおすすめ。

その他にも、実家の野菜を送ってもらう、お昼はお弁当を持ってくる、大きな野菜などは友達と半分にするといった方法もあるよ。いろいろ工夫してみて!!

る？

耳より情報　注意教訓　得する情報　困った事

学ネタ

レポート・意外な落とし穴

原稿用紙10枚の超大作手書きのレポートを紛失し泣きそうになったことがあります。

出したはずのレポートでも「未提出」の通告を受けたりすることがありますので、念のため、フロッピーに保存するかコピーしておくかして、「手元に必ず完成品のスペアを残しておく」のがレポートの極意です。

総合政策とは何ぞや……

今まで何度人に聞かれたことだろう。「総合政策学部って、何するの？」と。自分の頭の中でもボンヤリしているものを人に説明するのは、本当に難しい。大学のパンフレットやMONTOからの受け売りで何とかその場をしのぐことができるが、その度に「そういえば何だろう……」と考えさせられる。しかし時には「どんな物を作ってるの？」と聞かれることもある。あの～、製作はしてないんですけど……。

あっ、レポート忘れてた！

21時締め切りのレポートをまだ出していないことに気が付いたのは19時。そのレポートはメールで提出のもの。しかし夏休み中だったため、メディアセンターは既に閉まっていた！　レポート自体は仕上げていたのだが、送信するのをすっかり忘れていたのだ。さあ、どうする？　一休さんのように慌てず思い出そう。「うちの大学にはソフトウェア情報学部があるではないか！」。コンピューターを使わせてくれた人が、仏様のように見えたのは言うまでもない。

困った時のため、ソフトの知り合いを増やすことをお薦めします。そしてレポートの締め切りは忘れずに！

テストはどこが出る？

一夜漬けで丸暗記すればOKだった高校までとは違い、大学の試験は論述形式が中心。範囲が広くて全部をカバーする時間がない時には、ヤマをかけざるを得ない。難しい評判のU教授の試験で「優」をゲットしたという先輩にヤマかけのコツを聞いたところ「講義中、教授の目が輝いているところはテストに出る」とのこと。なるほど！しかし、教授のつぶらな目がいつ「輝いている」のか、見極めるのはなかなか大変だ。

一石二鳥の節約

次のバイトの給料日まであと10日もあるというのに、所持金がわずか2000円、という事態に陥ったことがありました。

そんな私の救世主は、「おはようパン」。1袋に食パンが6枚入っていて、お値段はな・なんと100円！これを1日に1袋買って、朝・昼・晩に2枚ずつ食べて過ごしました。

ほかに、今でもたまに実践しているのは、学食でライスを買い、家から持参してきたお茶づけのりをふりかけ、給湯器のお茶を注いで、昼食を済ますってヤツです。ダイエットにもなるかも？

お昼を安くすませる方法

毎日学食で食べていたら昼食代もばかになりません。そこで私が、お昼を安くすませるとっておきの方法を紹介します。

《その1》家でお弁当を作る。

《その2》安くて大きいフクダパンを食べる。

《その3》お昼休みに教授の部屋に質問に行き、「そろそろ食事にしないか？」と言われるまで粘り、おごってもらう。

食料を調達するにはどこがいい？

滝沢村には大きなスーパーマーケットが少なく、大学の近くにはない。そこで……。

野菜など小分けして売っているファル果子店。一人暮らしには便利。ファルカードも作り、ポイントを集めれば何かもらえる。

滝沢駅のすぐ近く、日の丸青果。何といっても野菜が豊富!! 魚や肉も売っていて、料理のバリエーションが増やせるカモ?!

村ネタ

それでもやっぱり村が好き？

ある夏の朝、ドアを開けるとそこにクワガタがいた。虫が多いとは思っていたが、まさかこんなビックゲストまでお招きするとは！他にアリや蛙の訪問を受けたという報告もあり、ローソンでモスラ並みの蛾に襲われたと息巻く者もいる。春先の通学路に落ちている毛虫の大群なぞ卒倒してしまう人もいるかも？脇の小屋から聞こえてくる「モゥ」の声もどこか懐かしい。滝沢村は自然で一杯だ。

しかも、村がのどかかなのは自然だけではない。小学生の登下校にあわせ村内放送が流れるのだ。思わず大学生も暗くならないうちに帰りたくなる。でも、隊列を組んで道路を滑走する中学生の自転車集団（白ヘル軍団）とのすれ違いはちょっとスリリング？

滝沢村は確かに盛岡より不便だけど、暗くしんとした夜に「夏は蛙、秋は鈴虫」なんてなかなかいいもんですよ。冬厳しいけど。

役場を尋ねて三千里

滝沢村に住民票を移した方が何かと便利だなぁと思ったとき発生するのが「ここの村役場どこ？」という問題。調べてみると「鶴飼」らしい。それは一体どこやねん！（遠い）

でもご心配なく。実は大学のあるここ（巣子）に主張所（北部出張所）がありますよ。

恐怖のアンビリーバボー「財布がない」

顔面蒼白の体験談なのですが、飲み会の後で自分の財布・カギ一式がないことに気づきました。幸い、携帯だけは身につけていたので知人に連絡をとって泊めてもらい、電話帳を調べて飲み屋に忘れ物はないか確認を入れました。そこで“ない”となったので、いよいよ大変な事態に。まず、急いでカード類の使用を停止させました。実は、現金自体よりカードを紛失することが恐ろしいのです。次に、事情を説明して大家さんからスペアキーをもらいました。最後に、警察に連絡してあとは祈るのみ！幸運にも私は親切な方に拾っていただいたので無事に戻ってきたのですが、貴重品入れが戻ってくるまでの生きた心地のしない数日間を思い出すと、寒けがします。

この話があなたの参考にならないと良いのですが……。

持つべきものはご近所友達

大学に入ってたくさんの友達をつくるぞ!!と意気込んでいる人へ。友達をつくるならばぜひ自分の近所に住んでいる友達をつくっておいた方が良いでしょう。突然何か起こった時にその人の家へ助けを求めに行くことができるからです。助けを求めるだけでなく、フラッと行けばごはんをご馳走してくれるなんてラッキーな出来事も!!

早起き戦線異常なし！

大学と言えど学校、決められた時間割があり、哀しいかな、月曜1時限目という「鬼か悪魔の仕業」としか思えない枠も現実として存在する。特に必修科目が1時限目の場合などは、起きねばならない。「あと5分系」の朝に弱い人は下記の作戦を参考に日々頑張ってほしい。健闘を祈る！

○夏はカーテンを開けて寝ると、太陽光線のまぶしさや熱で起床促進作用があるぞ。

○目覚まし時計を複数用意して時間差攻撃を仕掛ける。CDプレーヤーやTVをタイマーで作動させ組み合わせると、尚良い。

○殺人級にやかましい目覚ましを遠くに設置する。その音自体もさることながら、近所迷惑を止めなければという焦燥感で起きる。心臓に悪いのがタマにキズ。

けっこうイケるじゃん！

珍しく料理をしようと思いたち、オムライスを作ることにした。材料を切り終え、卵も割りほぐして準備は万端！と思いきや、肝心のケチャップがないことに気づく。ケチャップなしでは、チャーハンの味付けもできないし、仕上げに名前を書くこともできない。すべては順調と思っていたのに、こんなところでつまずくとは！

落胆しつつ、冷蔵庫の中をのぞくと、興味本位で以前購入したピザソースが目に飛び込んできた。色も似ているし、使えるんじゃない？と考え、おそるおそるかけてみる。見た目はバッチリ。次なる問題は味である。不安と期待を胸に、スプーンを口に運ぶ。舌が味を感じた瞬間「けっこうイケるじゃん！」予想以上においしく、新しい料理発見といった感じであった。ぜひお試しあれ!!

産直センターを利用すべし！

一人暮らしをしていると、食費が結構気になるものです。健康な食生活を送りたいのに、スーパーで野菜を買うと高くついてしまうので、ついつい安くて手軽なコンビニ弁当に手を出してしまうって人も少なくないはず。

そこで、オススメなのが産地直送センター!!新鮮な野菜を驚きの安さで手に入れることができます。ビニール袋いっぱいに詰まったりんごが200円だったり、にんじんが5本で100円だったり。心がウキウキする程の安さでしょ？さらに、売っているのは心温かいおばあちゃん達。一度ハマったらやみつきです。ちょっと車で足をのばす価値は充分にあり。休日には車持ちの友達と一緒にドライブがてら産直に行ってみては？滝沢にもあるので、散歩のついでに自転車を走らせるのもいいかも。

病気になったら、どこへ行けばいい？

滝沢村は、病院が少ない！大きくて有名どころの病院は、やはり盛岡市になってしまう。滝沢村に住んでいる人にとっては、車がないと大変！

そこで、おすすめしたい所、それは大学の健康管理センター。薬ももらえ、病院につれていってもらえる時もある。その他にも、身体の健康だけでなく、心の健康や、いろいろな悩み事を相談できる場も、学部ごとに設けられているので、そういうのも利用してみては？!

病院に限らず、滝沢村で生きていくには、車は必需品。車を持っている友達・先輩を獲得しておこう!!

村は広いよどこまでも

あれは、私が県立大学に入学したばかりで、右も左もわからないお子様の頃でした。

私は、実家から巣子にある自宅に戻ろうと、盛岡駅前のバスターミナルに行きました。しかし、どのバスに乗れば我が家に着くのか、当時の私には、全く見当がつきませんでした。

そんな私の前に一台のバスがやって来ました。行き先は「滝沢営業所」。「『滝沢』ってことは巣子車庫も通るだろう」と何の疑いも持たずに私はそのバスに乗り込みました。が、バスは巣子車庫なんてかすりもせず、終点の滝沢営業所に到着。

終点に一人取り残されてしまった私は、道に迷いながら、約3時間歩いて我が家にたどり着きました。

皆さん、滝沢村は広い、広すぎます。バスに乗るときは、路線をちゃんと確認しましょうね！

etc…

病院へ行こう！

人間、引き際くらい自分で決めたいものですが、そうもいかないのが風邪！一人暮らしでこれ程キツイものはありません。急な発熱など、体調が崩れたら薬を飲んで横になるのが最良です。常備薬として風邪薬は必ず持っておきましょう。自然治癒力を過信するとウィルスの猛威の前に死にかけることになるぞ！そしていよいよヤバイとなると病院にいかなければならないが、この時移動手段として車持ちの友人がいると助かる。しかし念のためタクシー会社の電話番号を控えておくと、全然病院を知らなくとも最寄りの所へ運んでくれるので便利！あと、病院選びの時、風邪ならば大病院はやめた方がよい。受付で長々と待たされた挙げ句、専門外の医者が出てくることも……。しかし、一番の常備薬は苦しい時に助けてくれる友人達ですね。そっちの方は大丈夫ですか？

映画情報について知りたい！

映画感謝デーとして、3・6・9・12月の1日は料金1000円で観ることができる。

また、フォーラムの会員になると映画1本900円で観ることができ、タダ券が2枚ももらえる。年会費学生200円なので、入って即もとが取れる。映画の種類も、1カ月ぐらい長く上映しているのもいいが、1週間など短い期間でしか上映しないのもお薦め。

大学の売店で、フォーラムの会報（月1回発行）が手に入るので、要チェック!!

――編集後記――

MONTO第3号は、「困ったこと」をテーマに作ってみましたがいかがでしょうか？作るにあたって1番困ったことが集まりの悪さだった新聞部ですが、終わってみればまずまずの出来になりました。次号あたりは表題どおりサクッといきたいものと切に願いつつ、本号が貴方に少しでも役立ってくれればいいなと思っております。

編集者／石川淳子　伊藤幸子　井上安奈　岩泉美奈子
及川きみか　大前秋朝　大和久ひかり
尾形真紀子　今野歩　柳原千穂

貧乏学生のバイトはこれ！！

バイトネタ

大学生といえば「金がない」というのが基本。そんな時はやっぱりバイトをするしかない。けどただバイトするのじゃつまらないから何かオイシイ特典がついてくるバイトはないものか……？そんな時は食べ物を扱っている所がオススメ。賄いがついている場合が多いので食費が浮くし、余った食品をもらって帰ってくることもしばしば。特にスーパーのような所であればお惣菜がもらい放題なんてことも……！？お金はもらえるし食費は浮くしで、いい事づくめ間違いなし！

ボランティアをしたいのだが、どうやって情報を手に入れたらよいか？

大学内のWeb掲示板や学部棟前・学生課前の掲示板に注目！！
老人ホーム、知的障害者施設での手伝い、障害者スポーツ大会の手伝い、福祉バンクで服の仕分け等ができるよ。

おいしいアルバイト

友達のK君は、夏、スイカとりのアルバイトをしていました。スイカの収穫は重労働で、夏の暑い日はかなり大変らしいのですが、のどが渇いたら、スイカは食べ放題なそうです。スイカを半分に切って、真ん中だけ食べる。種を除いて食べようとすると「そんな所まで食べなくていい。次のスイカを食べなさい」と言われるとか。
こんないいバイト、岩手の滝沢ならではですね。

勧誘・なんとかならんかね！？

勧誘ネタ

1 新聞勧誘編
（Aさんの場合）とにかくしつこかったので、「親」を引き合いに出して、撃退成功。「親に聞かないと分かりません！」。これがポイント。
（Bさんの場合）「とる予定ありませんので、とる時はこちらから連絡致します」と、キッパリ。
どうやら、毅然とした口調がポイントのようです。
2 宗教勧誘編
（Cさんの場合）「絶対にドアを開けたらいけません！！『少しだけお話を聞いて下さい』と言いつつ、長々と話します」
インターホンが鳴っても、すぐドアを開けずに「どちら様ですか」「何の用件ですか」と尋ねてから、ドアを開けるべし。

新聞の勧誘には要注意

「今週1週間サービスしますから取ってみませんか？」とセールスマンに言われ、タダなら読んでもいいかと思い、「いいですよ」と言った。すると「はんこを貸して」と言われ、1年契約なんて誰も言っていないのに、12カ月の契約書にはんこを押されてしまった。セールスマンは「1週間はサービスするから1年契約しないか」という意味で言ったらしい。だまされたとわかった時はもうどうしようもなく、結局1年読むはめになってしまった。

カビだらけ

住居ネタ

私の友達のYさんは「築1年」の新しいアパートに住んでいます。前に住んでいた人は1年も経たないうちに引っ越したと聞き、なぜだろうと思いつつアパートを決めたそうです。
ある日、彼女の友達がサンダルを貸してと言うので、久々に下駄箱を開けると、靴がカビだらけだったとか……。他にも、じゅうたんにカビが生えたし、押入れやカーテンにもカビが。そういえば、初めて部屋を見せてもらった時、案内してくれた建設会社の人が、ちょっとこのアパートのコンクリートは湿気を含んでいると言っていたような。
Yさんはこの春アパートを引っ越すことになりました。
みなさんも部屋選びは慎重に！

岩手の冬は厳しいぞ～。

真冬、シャワーが凍結。幸い、他のところ（キッチンやトイレ）は大丈夫だったので、とにかくシャワーの管に熱湯をかけ、ヒーターで部屋を温め、必死に溶かしました。
寒くなったら「要チェック」です。天気予報で次の日の最低気温がマイナスになっていたら、凍結防止のため、家じゅうの水道管をキチンと閉めましょう。万が一、「家じゅう凍結」してしまったら、水道屋さんを呼ぶ羽目になってしまいます。そうなると、甚大なお金がかかるそうですので、そのへんはぬかりなく、ご用心を。

出るはずのない水道

水道が凍ってしまった。部屋を暖房で温めてみたり、お湯をかけてみたり…。しかし一向に水はでない。しかたなく水道屋さんに電話し来てもらうと、元栓がしまっていただけということが判明。おさわがせしましたと、帰ってもらおうとしたところ、しっかり出張費を請求されてしまったのだった。

バス利用者へのお得なアイテム

移動ネタ

最初のうちはお金に余裕があるけど、バス通学だからどんどんお金が減っていく……。そんな時に役立つのは「バスカード」。通学用のバスカードは1000円につき300円分多くバスに乗れるシステムになっている。だから5000円のバスカードを買えば、普通に小銭で払う時より、なんと1500円分も多くバスを利用することができる！！お金がない時の1500円はかなり大きいから持っていて損はないよ。

帰れなくなった夜

ある日の飲み会で、テストも近いし、今日は一次会で解散して終電に間に合うように帰ろうと話していたのに、T先生が「オレは二次会に一人でも行く」と言いはじめ、結局、終電に乗れなくなってしまいました。
先生の意外な面やプライベートなことを聞き出し、結構イイ人だったんだねと、収穫はあったのですが、電車に乗れなかった人は、市内に家のある人の所へ泊まる事になりました。
飲み会では、どんな事が起きるかわからないので、市内に家のある人をつかまえておいた方が賢明です。

電車がない！

ないわけではない。あることはあるのだが、1時間にたった1、2本。待ち時間が40分なんてことはざらにある。青春の1分1秒がどんどん流れていく……。
この時間をどう過ごすか。それは話し相手を増やすことに限る！同じ講義を選択している人でもよし、うんちくを傾ける教授でもよし、駅にいるお年寄りでもよし、ノラ猫でもまあいいか。大学生活はネットワークを広げることで、何倍も楽しくなる。ゆっくり電車を待つことにしよう。

新聞勧誘の断り方教えます

みなさん、新聞の勧誘ってうるさくてしつこくて嫌ですよね。そこで、画期的（？）な新聞勧誘の断り方を教えます。
まず第一に、自分は親からの仕送りが少なく、バイトをしてやっと生活していることをアピール（嘘でも構わない）。新聞を買う余裕などないことを強調します。
そして第二に、大学の図書館へ行けば、全種類の新聞が読めることを告白する。ここで重要なのは、勧誘する人の次なる手をおさえるために、既に毎日のように図書館へ行って数種類の新聞を読んでいるということを添えることです。そして、深くつっこまれる前に「そういうことなので……」とドアを閉める態度がとれたらもう完璧！！これであなたも新聞勧誘バスターです。もう向かうところ敵なし。

「音」対策

上の階の人が、日曜の昼間にピアノを弾きます。しかも下手くそ、かつうるさい。…こういう時の対策は、①「いつものことだなぁー」と軽く受け流す。②それ以上にうるさくする。（コンポのボリュームを上げる）③あきらめて出掛ける。④大家さんに直訴する。
お互い、ある程度の「音」に対する気配りが大切なようです。

隣人は何をする人ぞ？

パソコンや携帯など、薄さが強調されもてはやされている昨今ですが、逆に薄くて困るものがアパートの壁と床でして、その場合生じてくるのが騒音問題でしょう。深夜の掃除や入浴（シャワー）も思った以上に響くものですが、特に洗濯などは爆撃機を思わせる震動のため「御法度」。音楽鑑賞と言えば聞こえはいいが、ハードロックなんか大音響でかけられた日にゃ「なわ跳び選手権」会場に等しい打撃音！蒸し暑い夏に窓を開放していると被害範囲はさらに広まります。そうすると当然、周囲の住人の怒りゲージは満タンになるワケで、チャイムを連打して直接怒鳴りこまれたり、大家さんから苦情の電話を受けたり、中には窓に空き缶を投げつけられたという人もいます。そういったトラブルを避けるためにもヘッドホンなどを用意しておくと良いですよ！

寒さをしのぐためなら何でもします

ある日、家のファンヒーターが壊れてしまった。しかし、ガス代節約のため今まで使用していなかったエアコンがあるじゃないと、つけてみたが、設定温度30度にしても全く暖まらない。外はとうの昔にマイナスの世界である。岩手の冬の厳しさを再実感しながら、頭はどう寒さをしのぐかを考えフル回転。暖房器具と呼ばれるものは、あとホットカーペットのみ。こたつさえあれば……、そうだ！！とひらめき、そそくさと毛布を出して、テーブルの上にかけ、ホットカーペットを最大温度に。簡易こたつの完成だ。自分の頭も捨てたもんじゃないなと自己満足にひたりながら、何とか寒さをしのいだのであった。

急がば回れ

昨年1月のある早朝のことでした。片道2時間の電車通学をしている私は、その日も1時限から授業が入っていたため、6時に家を出なければいけなかったのですが、寝坊をしてしまいました。急いで準備し、自転車に飛び乗り、駅へ向かおうとしました。そして、100メートルほど走った所で、ズルッ…グワッシャーン！路面の氷で自転車は横滑り、私は顔面をアスファルトに強打。一瞬気を失い、我に帰ると、前歯が1本折れていました。近所の歯医者さんに行きたくても、早過ぎて開いていません。救急車を呼ぶほどでもなかったので、そのまま滝沢に向かい、大学の近くの歯医者で処置してもらいました。

という訳で、皆さん。真冬の早朝の通学はくれぐれも余裕を持つように！

これって援助交際？

滝沢村在住の友人と盛岡に飲みに行った日のこと。上機嫌で飲み屋を出たまでは良かったのだが、なんと全員所持金ゼロ。飲み代に使いはたしてしまっていた。帰りの電車代がない！途方にくれて座りこんでいると、「どうしたの？」と優しく声をかけてくれるお兄さんが！！お金がなくて帰れないことを説明すると、おもむろに千円札を差し出した。一瞬そのお兄さんを疑ったが、私たちはあまりに困っていたため、おそるおそるそれを受け取った。「お礼をしたいから、名刺をください」と言っても「これぐらい何でもないから」と名前すら教えてはくれず、私たちのためにタクシーをとめて去って行った。お陰で私たちは何事もなく無事に帰ることができたのでした。良い子はマネしないでね。

サクッとどうす

どこの本屋へ行けばいい？

勉学ネタ

大学生活を送る上で、本屋さんはなくてはならないもの。特に専門性が強い学部の学生は、専門書が必要になる時がある。そんな時は、盛岡市にある「さわや書店」、「第一書店」に行こう！ この2つの本屋さんは、2階に専門書コーナーを設けていて、いろいろな本が揃っている。本が品切れの場合は、取り寄せてもらえるので便利。

遅いほどラッキー？

選択科目には4年生までに単位を取得すればよいものがいくつかある。大抵の人は1年生のうちに取得してしまうのだが、実は2年生以降に授業を受けた方が楽にとれるという場合もある。周りよりも遅い時期に授業を受ければ過去問やテストの形式を聞き出せるからだ。その方がテスト勉強も「的」をしぼって効率よくできる。私も何度かこの方法で助けられた一人。けどこの方法、遅すぎると手遅れになるのでお気をつけください。

テスト勉強で困った時

基礎数理のテストで全然わからなくて困り、同じ学部の友達と勉強しました。しかし、みんなも勉強に必死なので、教えながらというのは難しい。
そんな時、別の学部の友達で数学に強い人に先生になってもらい勉強に励みました。
おかげで、私たちの数理の成績は「優」でした。

運命の選択

たった1回講義を受けなかったために、レポート提出を知らず単位を落としそうになったとがありました。これはその時ある2人がとった対処法です。
とりあえず先生に知らなかったことを素直に言う。怒られるのは当たり前。でもなんとか提出期限を1日延ばしてもらうことに成功。しかし、提出した場合でも最高評価は良。
《Aさんの場合》今まで出席した分を無駄にしたくないと言って1日でレポートを仕上げた。
《Bさんの場合》提出したところで良にしかならないし、あせるのは嫌と言ってその年はあきらめ、次年後輩と一緒に受けなおした。
あなたならどっちを取る？

職支援の模擬会社
グレードUp社」

社会の一員として本当にやりたいことは何か？起業家精神を奮い起こす

就職情報センターの一隅に顔を揃えたのは八人。「どんな人の話を聞きたい？」「講師の依頼はどういうルートでお願いしたらいいかしら」「別に提案したいことがあるんだけど」と自由にアイディアを出し合い聞き合い、思いを重ねる中から実行への道筋を探っていく。「あい・ぴ～・ゆ～・グレードUp社」中心メンバーによるある日の会議風景だ。

県立大学に学生たちによる就職支援の自主組織が誕生したのは昨年の十一月四日のこと。モデルとなったのは一橋大学で行われていた業界研究セミナーだった。

いつか本当の会社になることを願って「あい・ぴ～・ゆ～・グレードUp社」と命名されたこの組織は、社業として「卒業後の進路を見据え学生の主体的活動を支援すること」を掲げた模擬会社。営利を目的に生まれたものではなく社長、副社長はじめ社員は勿論無給。事務所は持たず連絡は電子メールに依り、議事録もメールで六十名の社員に送る。

かつて岩手起業家大学に参加しインターンシップに興味を持つ佐藤奈貴さん（総合政策学部一年生）が学生課の提案を受け、友人たちに呼びかけて設立総会にこぎつけた。総合政策学部を中心に各学部にわたる旗揚げメンバーは五十七名。「何か面白そうなことが始まりそうだから覗いてみよう」と興味一杯に参加した学生も多かったらしい。

☆その他、能力の向上・卒業後の進路等に関すること

具体的な企画を提出し、興味を同じくする社員がプロジェクトを組んで実施に向けて動く。サークルとは異なり学生規約に基づく「特務機関」（他には学祭実行委員会とサークル委員会がある）で活動の成果は学生たちに還元することとなる。

「超氷河期と言われる一方でベンチャー企業を立ち上げエネルギッシュに活躍している人も目にします。就職戦線に勝ち残れないのは、個人の中に負ける要素があるのではないか。こんな時代の学生には、よりクリエイティブな発想が求められるでしょう。社会を意識し自分を磨くことにみんなで取り組みたいと思っています」と言う石川有希子さん（総合政策学部二年）が初代社長に就任。副社長となった佐藤奈貴さんは「受験を乗り越えて次にやってくるのは就職。それは向き合わねばならない収入を得るための〈現実〉です。学生時代を漫然と過ごすのではなく、社会の一員として本当にやりたいことは何なのか、将来の目標を見極め進む意識が必要だと考えます。この活動を通して社会を見る目も養いたい」と意欲的に取り組む姿勢だ。

しかしグレードUp社は白紙からの出発であり組織編成・運営のノウハウも予算も無い。思いは巡ってもなかなか実行の術が見つからなかった。

十一月二十九日。三回目の全体会を迎えプロジェクトが発表される。「他大学との学生交流会・大学施設内の池や道に命名・事業の広報活動・全国PRで他県からの入学者を増やす・研究室の設備開放の申し入れ・冬のイベント開催」など多様なアイディアが並んだが実行に結び付くには至らなかった。設立趣旨が周知されていないのか、目的意識が希薄なのかと中心メンバーは悩みもしたが、乗り越え次をめざすことに意義を見いだした。

一方で就職ガイダンスやソフトウェア関連の業界セミナーを開催・進行や受付を社員が担当して〈実務経験〉を重ねる機会を得た。十二月二十二日には〈夢灯りプロジェクト・夢語りの夜〉を短期大学部と共催、イベントを通じて社員のやる気を発表者に英語の原本が渡されます。コピー機はまだない時代で、発表者だけはちゃんと原文を読んできなさいというわけです。私は、翻訳だけでお茶を濁そうとしたのですが、先生の質問に立ち往生し、先生からは一言「ちゃんと原文を読むんだね。来週やり直し」でした。仕方なく原文に当たると、質問を受けた部分はほとんど誤訳でした。原文は読んでいないはずなのに、なぜ誤訳まで分かってしまうのか、すごい先生だと感心しました。もっとも、後になって、誤訳があると論理的におかしな日本語になってしまうので、文章を論理的に読み進む訓練を積むと、翻訳を読むだけで、かなり誤訳に気づくようになることを知りました。私も大学院の授業を担当してから、同じようなことを大学院生に言うことになり、また、自分で翻訳するときも、誤訳を見つけるのにこのときの経験が役立ちました。そのときの先生も今年の2月に他界され、お通夜の席で当時を想い出しながらご冥福をお祈りしました。

このように、楽しんで、苦しんだ六年間でした。

☆業界研究セミナーの開催

☆就職ガイダンスや各種講演会の開催

☆インターンシップに関すること

☆能力開発のための各種資格取得に関係すること

☆公務員採用試験に関連すること

☆新設大学の顔を作ってきた一期生二期生たちに遅からず訪れる社会人デビューの時。学生の瑞々しい若さは得難い武器だが、それだけでは老練な〈社会〉にはかなわない。臆せず立ち向かうために力を結集し個人の能力を磨こうと、グレードUp社が業務内容として掲げているのは

あのころのこと

総合政策学部
古川　浩一教授

私は、学部、大学院修士課程の六年間の学生時代を送りましたが、前半の三年間は、高校までとは違う世界を体験したり、友人と親交を深めたりと、気楽な学生生活を楽しみました。

順調に単位は取っていった方でしたが、危ないのもありました。ドイツ語の授業では、試験に出そうな場所を友人に教えてもらい、数ページ分の訳を丸暗記して試験にのぞみました。山は当たったのですが、問題文は教科書の文章から一部を除いたものでした。私は、出だしの単語だけを見て、暗記した訳を答案に書いたため、問題にない文まで訳したことになりますが、それでも、単位だけは頂けました。

人並みに麻雀も始めました。ルールを少し覚え、雀卓を囲む機会が増えたのですが、友達が私に「古川、振るか―」と催促すると、期待通りに振り込むことが多く、あまり熱中しないままに終わってしまいました。

このように気楽な学生生活を過ごして、三年終わりの春休みに、果たしてこのまま卒業してよいのかと自問しました。私は、企業という存在に強い興味を持つようになっており、大学院で勉強を続けたいと思うに至りました。当時の大学院入学試験は、外国語が二カ国語でしたが、私のドイツ語の能力は前に書いた程度です。改めてテキストを見ても、ABCの読み方から始めるという有様でした。

自分を追い込んで大学院受験
―楽しみ、苦しんだ六年間

私が大学を卒業する年は、東京オリンピックを控えて景気が上向いており、六月くらいになると、友達は次々に就職先を決めていきました。私も、就職運動の思いに駆られましたが、決まってしまうと安易に流れると思い、入学試験で落ちた最悪事態も覚悟を決して、悲壮な思いで受験勉強に励みました。大学受験は落ってもそれほど目立ちませんが、大学院受験者はごく少ない時代で、大変なプレッシャーを感じました。就職が決まって学生生活の最後を楽しんでいる友人に会うと焦ってしまうので、大学に行くのも最小限にしました。幸い合格したのですが、当時の大学院の授業は非常に厳しいものでした。与えられるテキストの輪読が中心で、報告者には、先生はもちろん、授業に出ている博士課程の先輩からも質問が浴びせられます。答えに窮することも多く、そうなると次週にやり直しです。テキストは英語かドイツ語がほとんどで、同級生は三人でしたので、毎週一、二回は発表が当たり、次週回しになると、さらに報告回数が増えるという仕組みでした。

ある先生の授業で、翻訳本がテキストになり、日本語だと言って喜んだことを覚えています。この授業では、次の

友達と神津牧場にハイキング。前列右端が筆者

中国と私
「中国は変化している」

佐藤利明助教授

岩手県立大学に赴任して、中国を三回訪れた。

いずれも細谷学部長を団長とする河北省社会科学院との共同研究のための訪中である。だから、北京に着いてともかく列車で、あるいは高速バスで、一三〇〇キロ南にある河北省の省都、日本で言えば県庁所在地である石家荘市へ移動し、河北省社会科学院を表敬訪問することから始まる。

毎回訪中して感じるのは、「中国は変化している」ということ。石家荘市でいつも泊まるホテルの窓から決まった方向を望むと、工事中だったビルが完成し、三回目にはそのビルの周囲が変わっていたりする。あたかも「定点観測」である。昨年十一月の訪中の際は北京空港の国際線ロビーが新築された方に移り、二回訪れた承徳市では二回とも同じホテルだったが、一年の間に雰囲気ががらりと変わってこ綺麗になっていた。人口が十二億とも十三億ともいわれる中国のエネルギーを感じる。

実は、中国との出会いは五年前にさかのぼる。だから、これまで四回訪中していることになる。

私の中国経験の入り口は、ややおおげさに言えば、シベリアのタイガである。宮城県の若者たちと一緒に吉林省長春市に飛んだ際、ロシア領経由の特別チャーター機の窓の下にどこまでも広がる針葉樹の森と、そのただ中を定規で引いたかのような一本の白い道路。

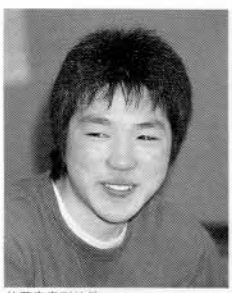
長春空港に降り立っての経験。やれやれと思ってトイレに行ってほっとする間もなく、両脇に中国人男性が来て一緒に始めたのである。なるほど、小便器を一人で使用することは、混んでいるときにはいかに「非合理的」なことか…。そして、トラックや乗用車、ロバや馬の引く馬車、荷車、自転車の行き交う信号も横断歩道もない三〇メートル幅の道路をいかに横切るか。この経験は、石家荘市で同行の新入団員を毎回「青年市場」（衣服などを売る商店や露店の並ぶ一角）に案内するときに生きているのである。

ところで、細谷団長にいつも連れていってもらう北京裏町の餃子屋は、今日も混んでいるだろうか。

河北大学・日本語学科を訪問。学生たちが寸劇を通して日本語を学んでいた。右から3人目が筆者（1999年5月・細谷団長撮影）

学生自身による就
「あい・ぴ～・ゆ～・

活動計画を協議するあい・ぴ～・ゆ～グレードUp社の役員たち



佐藤泰貴副社長

石川有希子社長

引きだし、社をPRする（営業活動）にも繋がったようだ。

とはいえ、達成感はまだ味わったことはない。挫折感も知らない。グレードUp社の業務は今緒に就いたばかりだから。「早く土台づくりを徹底させ、組織を更に進める枠組みを固めたい。ホームページ開設も一つの目標。それを活用して全学生への情報提供を図り大学の活性化にも繋げたい」と石川さんは話す。

不況に身動きならない社会状況の中で既存の企業を目指すより起業に夢を結ぶ学生も多い。

二年後、社会に対峙した時、他の大学生と競い明確な大学カラーで自己主張ができるかどうか、自己の能力に自信をもって賭けることができるかどうかが問われてくるだろう。

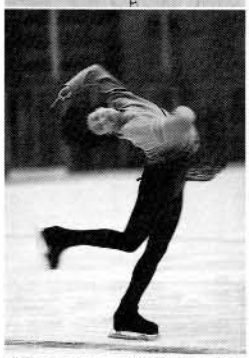
グレードUp社が今後業務を通じ、企画立案の基礎から応用までの実践トレーニングの場ともなれば、社会を意識する学生たちの心強いより所になりうるはずだ。外の世界との接点を多く作りながら学生たちの起業家精神を奮い起こしていく力ともなりそうだ。

そこかしこに伏流水として潜んでいた個性が一つに集まれば大きな流れが顔を見せる。県立大学のキャンパスカラーを作り上げる核になることも目指してグレードUP社は本格的な活動開始の春に向かう。

ラテン系の曲で個性的な演技を

インターカレッジめざすフィギュアスケート部

門脇悠美子さん　総合政策学部二年



盛岡アイスアリーナで練習に励む門脇さん

二歳でスケート靴を履いて以来フィギュアは生活の一部になっていた。毎日サンビア金ヶ崎で滑り仙台にも通った日々、クラブ活動も放課後のお喋りもあまり知らない。

「日本一の田舎」を宣言した胆沢町で育ち、散居の町の景観や環境を学びたいと入学した県立大学。スケート一色だった日常が一人暮らしの大学生活で少し色合いを変えた。授業やアルバイトでアイスアリーナに通う時間がままならない。技術を学ぶ先輩スケーターもなく、いわば自分だけがライバルの辛さも少し味わっているらしい。

昨年の国体で十六位の成績をあげたものの今年はそれに及ばなかった。「練習不足が身体の切れの悪さに繋がるんです。私は努力を重ね練習を重ねないと大会で成果を出せないから」とは言いながら、振り返るより次の大会に思いを馳せる人は、心の中にしなやかな強さとバネを隠し持っているようだ。

「迷いがあると跳べないし、跳ばないと点数が出ないから、どう表現するかよりジャンプのことで頭はいっぱいなんです」　岩手には通年で使えるリンクが無いため四月からは週二～三回の八戸通いと陸上トレーニングが始まる。創設したダンス部で身体を動かすのもその一つ。パートナーさえいればアイスダンスに挑戦したいほど踊ることが大好きなのだと言う。

「インターカレッジに出場できるのはあと二回。ラテン系の曲を使って他の人とは違う個性で思い切り滑りたい。国体入賞も目指したいですね」と夢が巡っていく。

ジャンプをマスターする過程の面白さ、跳べた時の達成感、人に演技を見せる高揚感、それがスケートを続けさせる原動力なのか。リンクの上で途端に輝き出した表情に、夏の森に棲む小妖精が一瞬重なった。

「おばさんになってもスケート靴は履いているでしょうね、きっと。」

氷の花より緑の息吹を感じさせるスケーターはこの三月、二十歳になった。

総合科から総合学部へ

高校再編を考える集会でパネリストをつとめた

大和久 ひかり さん　総合政策学部一年

普通科と商業科の岩谷堂高校が県内初の総合学科として生まれ変わったのはちょうど入学した年のこと。「一言で言えば〈大学みたいなもの〉でしょうか」好きな教科を選択し自分で時間割を作り、先生とも時に友人のように接する自由な空気の中で過ごした三年間。昨年十二月四日、高校再編を考える集会のパネリストとして公会堂でその経験を話した。

「高校時代から進路を考え選択することで将来への目的意識も育つと思います。色々な道を目指す同級生と出会い、多彩な個性に触れて、高校時代は本当に楽しかったですよ」

高一の時、県の派遣事業でドイツの環境政策の一端を見学する機会を得、環境問題を学ぼうと県立大を目指した。「求めるものや好きなことを突き詰めて勉強できるのが面白い。深く調べる過程で自分のものになっていく実感、それが新鮮な喜びですね」高校では学び得なかった《政策形成論》や《個と集団》の講座に興味をひかれた一年次。二年になって地方自治を学ぶのが待ち遠しいようだ。「高校時代より今の方が勉強してるかもしれない。まだ先のことだけど学んだことを生かせるような民間企業に行けたらいいな」

山崎豊子の「沈まぬ太陽」五巻を読み終えたばかりという読書好き。「アルバイトの無い時は学校に残り一人で何かやってます」と笑うが、キャンパスのあちこちに知的好奇心の道標を探訪中なのかもしれない。

総合学科の経験を発表した大和久さん（左から3人目）

モノゴトはよく調査せよ

「脇田健一助教授の研究室」の巻

ほんとうはアウトドア派 それとも芸術派？

中国で買った金魚の凧も脇田先生の正体をさらに不可解なものにしている

いつも軽快な服装でスポーツマンタイプ、研究室にデンと陣取っているのはマウンテンバイク。とくれば、誰だってさわやかなアウトドア派のイメージを抱いてしまう脇田先生。きっそうと岩手の大自然を駆け抜ける姿を想像してMTBに目を向けると、その視線を制するように「これはたまたま置いてあるだけで、ボクはアクティブなアウトドア人間ではないんです」と言う。

ゃたまたまゃの訳とは、ある暑い夏の日のこと、飲みに誘われて車を置いて帰り、翌朝、汗を流しながら自転車をこいで来たものの、乗って帰る気力がなく、そのまま置いてあるのだとか。

「大学の駐輪場は屋外だし、家の玄関も狭くて置けない。ここがボクに与えられたスペースで一番広い空間だから」とは言っても、車を買う前はしばらく十数キロの道をMTBで通っていたのは事実。「豊かな自然の中を自転車で走りたいし、釣りにも行きたい。でも、その時間が取れなくて、現実の前に夢が崩れてしまった」と、先生はちょっとばかり残念そうである。

空気の抜けたタイヤから視線をそらし、ふと横を見ると書棚に引っかけた金魚の凧が目についた。「珍しい凧やなあ」といつの間にか関西弁が移ってしまったが、これは先生が中国へ調査に行ったおり、買い求めてきたものだという。金魚は鯉科の魚。自然の鯉を人工的に改良してきた中国では、様々な形態の金魚が見られる。これも、文化の中に自然の営みを取り込んでいく伝統的な発想の一つのあらわれなのだそうだ。

と、そんな話をしているうちに「本当の趣味はこれ」と言っておもむろに取り出したのがバイオリンである。子供の頃から習い始め、学生時代はアマチュアのオーケストラに入ってベートーベンやブラームスを演奏していた。今はみんなが帰った後、一人静かな研究室で弾いている。「学問も趣味も、日々のトレーニングが大事。楽器を弾くにはメンタルなセンスと肉体的な鍛練が必要で、一定の時間をかけて練習しないと腕が落ちていく」と、脇田先生。バイオリンを弾き始めると、服装はともかくアウトドア派から華麗なる音楽家に変身してしまった。

ちなみに、マウンテンバイクと凧、バイオリンの三つには「深い因果関係はない」とのことだった。

●【MONTO】岩手県立大学総合政策学部ニュース　Iwate Prefectiral University
●第3号　2000年(平成12年)4月5日　●発行：岩手県立大学総合政策学部
〒020-0173岩手県滝沢村滝沢字巣子152-52
代表TEL019-694-2000　学部019-694-2700　FAX019-694-2701(学部事務室)

MONTO 岩手県立大学 総合政策学部ニュース

Iwate Prefectural University
第3号2000.4.5

キャンパスの植物たち

●第三回　平塚明助教授
フタリシズカ

大学隣りの森林公園はかつて農水省の鳥獣試験地でした。今はアカマツにコナラやカスミザクラがまじった林になっています。長い冬に抑えられていた草木は春、一斉に花を咲かせます。この穏やかな爆発がおさまって一息ついた頃、六月の暗い林の中で白い泡つぶのような花をつけるのがフタリシズカです。この植物、自然界に時々みられる変わり者で、同じ親が二種類の花をつけます。

最初が、この六月の花。花びらもがくもなく、白く見えるのは雄しべです。内側に一本の雌しべを包み込むようにしていますが、多少の障問はあります。この花が六月の雨に濡れながら種子を実らせるのと平行して、もう一つのタイプのつぼみが現れます。「つぼみ」と書いたのは、これが最後まで開かない花だからです。自家受粉しかできないこの花を、専門家は「閉鎖花」と呼んでいます。親は九月の終わり頃まで、閉鎖花を少しずつつくり続けます。

なぜ、親が二種類の花をつくるのか。普通の花がうまく種子をつくれなかった時の保険だとか、他家受粉と自家受粉を使い分けているのだとか、さまざまの説があります。フタリシズカの普通の花の花粉が何によって運ばれているのかは、まだよく分かっていません。長雨の季節、暗い林床を飛びかう虫の姿はわずかです。唯一、フタリシズカのそばで目立つのがアリの仲間です。彼らは何をしにフタリシズカに寄ってくるのでしょうか。

どうもアリたちは花よりも実の方に興味があるようです。そうです、このシリーズ一回目に登場したカタクリと同様、この植物も種子をアリに運んでもらうのです。「普通の花」と「閉鎖花」、それぞれの種子のどちらがアリによく運ばれるのか。アリの巣のそばに種子の小山をつくっては、ずっと観察したことがあります。はじめは「普通の花」からできた種子の方がアリによく運ばれるとの結果が得られました。他家受粉によってつくられ、親とはあまり似ていない「普通の花」からの種子は、親の住めないような環境に運ばれても、生きていける可能性があります。一方、自家受粉でできた親そっくりの「閉鎖花」種子は、よそに運ばれることなく、親の近くに落ちたままです。親と性質が似ているのですから、親のいる環境が最も快適なのでしょう。

と、一見つじつまがあっているようですが、ことはそんなに簡単ではありませんでした。別の年、再び観察を続けると、閉鎖花からの種子も結構運ばれることがわかりました。今のところ結論は出ず、まだまだアリの行列とのにらめっこが続きそうです。

なお、近縁のヒトリシズカは少し早く五月頃、白いブラシのような花をつけます。こちらも森林公園で見ることができます。

花を付けた軸が2本でフタリシズカ。でも3本以上あることも。

モント事件簿(その3)
県大アーチ風評被害？事件の謎

最近、岩手県立大学のゲートを飾る銀色のアーチに関する奇怪な風説が囁かれております。本官、銭形モント警部はその風説の言い触らし犯人を探索中であり、総合捜索学部のご協力をお願いに参上いたしました。　風説とはアーチが風に鳴るというのであります。アーチ自身が、私はアーチでも門でもない、アーチスト風野門徒である、と名乗って風の強い日に学生歌「風のモント」を歌うといいます。その風説こそ学生の間に流行っている「風邪（かぜ）の元」である疑いが濃いのであります。　半導体の研究に画期的な貢献をされた学長先生のもと、アーチにも、ハイテクを駆使する学風を反映させた仕掛けがあるのだと、利いた風な説明をする人もおります。そのため、寒風の吹きすさぶ夜、アーチの下で鳴るのを聞こうとアーチほけ、いや、待ちぼうけして風邪をひく学生が増えておるのであります。

さらにこの類いの風説が広まる風潮にあり、ＩＰＵをイップウ（一風）変わった大学と読むという風刺的なものとか、ロゴマークの三本の線は岩手山が噴火して吹いてくる爆風を示すという臆病風に吹かれたような噂とか……、かような風聞によって本学の風格が損われ、風紀が乱れるのではと心配でなりません。かかる災いを「風」評被害と申すのでありませんか？、先生……。

は？、なんと今、いわれましたか。（その噂のような自由な発想こそ、わが学部の学生に必要だ）ですと？……！！

ひょっとすると、風評の出所はここ、犯人は今、本官の目の前に立っている……。風向きが変わったようで何やら、コロンボのような気分になってきましたな。そうそう、うちのカミサンも、一番怪しいのは総合創作とか、「ウソ・合成・策」とかいう学部の先生ではないかとそんな風に言ってましたが……。

「アーチが風に鳴る」……銭形モント警部の推理はアーチッチ、アーチッチ…と沸騰する

第三回　黒岩幸子先生の巻
お宝拝見！
レーニン全集十八巻 ドストエフスキー全集十二巻

ゴミの山の中にお宝が埋まっていた

「これなんですよ」分厚い古書を机に並べるとき、黒岩先生の瞳は輝いていた。まず披露してくれたのが、ドストエフスキー全集十二巻。一八九四年、サンクトペテルブルグで発行されたものである。世界的人気作家のドストエフスキーだが、ロシアに近寄る無神論、社会主義の危険に警鐘を鳴らしたことからソ連政府にとっては「反革命」的存在となり、ソ連時代にその著書を入手するのは難しかった。八〇年代後半になってペレストロイカが始まり、言論、出版の自由が大幅に緩和されると、ソ連では次々とかつての発禁書が出回り始め、当然ドストエフスキーも読まれるようになった。一九九八年の十月末から一週間、海外研修でモスクワに滞在した黒岩先生は、あちこち本屋を回って歩いた。熱心に探し求める先生をじっと見ていた小さな古本屋のご主人が、ひょっこり持ってきたのがこの全集だった。十二巻きれいなまま揃っていたことに先生は声も出ないほど感激。千ルーブル（約七千五百円）という値段にはさらに驚いた。

博識のご主人とあれこれ話をしていると「これもある」と次に持ってきたのがレーニン全集。ソ連共産党（ボリシェヴィキ）の決定にもとづいて一九一七～一九二七年に発行された珍しいもの。これは十八巻二十三分冊で五百ルーブル。

本のみならず民衆に陶器もかつて禁止されていたものがゴミの山と一緒に並んでいる今のロシアはまさにお宝の山。それだけに、本物の宝を深し出すには、真贋を見極める目がなければならない。

お宝の本は教員住宅の一室を書庫専用にし、その中でも一番見栄えのするところに収めている。書棚にのは新字体で注釈つきの新しい本。「もったいないくらべるべくもない。原書で持っていることに精神的価値があり、重みが違う」人に見せびらかすためにあるんです」と、にっこり。

現在、「ロシア語とロシア事情」を学んでいる学生は十九名と少ない。これだけ面白い時代に関心が低いのは残念だと黒岩先生は言う。公定イデオロギーであった社会主義思想を放棄したロシア人は、それに代わる新しい国家理念、民族のアイデンティティを模索している。世界的にも大きな出来事で、こんな情勢は百年に一度あるかないか。ロシアそのものがお宝を探せる宝庫なんです」と熱っぽく語る先生は、来年こそ講義室が多くの学生諸君で埋まることを願っている。

ドストエフスキーの肖像画も「お宝」

マイ・ホームページ　元田良孝教授にクリック

「ようこそ！ここは元田研究室です」という歓迎の言葉と、優しい笑顔が迎えてくれる元田先生のホームページは、平成子年七月に開設された。周囲の友人に触発されて開いたんですが、パソコンはあまり得意ではない。素人の域を超えていないんです」としきりに謙そんするが、自己紹介、日々の所感を綴った「私の狼り言」、趣味の写真を入れた「元田写真館」、そして専門に関する「少しまじめなお話」など、内容は年々ボリュームアップしてきている。

昨年の十月二十五日の私の狼り言は、キルギスで人質にされていた日本人が解放されたことを取り上げている。先生は六年前、道路調査でキルギスに滞在していたことがあり、その経験と思い出を読んでいると当地の暮らしが身近に感じられてくる。

「更新が大変」とご本人も認めるとおり、次は飛んで二〇〇〇年二月二十一日。取材があると聞いてあわてて書いたのだとか。仲間の先生から「私の狼り言が面白かった」とメールが寄せられたことがあり、その時は張り切って頑張って書き直したけれども、最近は「私のホームページは更新しないのが特色」と、開き直っている感がないでもない。

元田写真館は、八幡平のワタスゲ、石神の丘美術館のラベンダーの群落、安家川の清流など、岩手の自然を写したものが多い。愛用のカメラはコンタックスG1。もっと自然の中を歩いて、美しい風景や花を紹介したいと意欲的だ。

「自分の研究項目を入れて、もう少し頑張ればいいのだけれど、そこが限界で今のところ発展していない」とおっしゃるが、著書『地震工学概論』や、「少しまじめなお話」では、昨年四月に記者発表した「岩手山防災マップと防災意識に関するアンケート調査」を紹介している。全体的にはエッセイや写真が中心で、お人柄をあらわすかのように柔らかいムードが漂い、侍意のイラストが心を和ませてくれる。

これまで学生からのリスポンスは一度だけです、「更新する際、新しい情報を一番上に持って来たがいい」と教えられたそうである。それまでは新しい情報は常に下に入れていたから、先生のホームページは、いつ開いても同じ情報が最初に出ていたことになる。

「間違いを指摘されたけど、それはそれで大変嬉しかった。何でもいいからお便りをいただくと続いていのです」と、元田先生。学生諸君がクリックする回数が増えると、先生のホームページも充実していきそうである。

「元田写真館」のページに安らぐ

http://www.iamra.iwate-pu.ac.jp/motoda

●編集後記

MONTO第三号をお届けします。今年もなんとか入学式に間にあわせることができ、ほっとしているところです。

新入生を迎えて、総合政策学部の学生もいまや二百人余り。学内は一段とにぎやかになってきました。入学式のたびに思うのですが、わずか一年の年齢差なのに、新入生と先輩とは、どこか違う。毎日頑張っていると気がつかないのですが、学生たちは確実に変化しているんですね。

座談会パート3で、教員、学生、父母、とひとわたりご意見をうかがったことになります。三年次生を抱える親御さんたちの心配はやはり、就職のようでした。

学生のページ、今回のチーマは「困ったときにどうする？」見出しをみると、ごく役に立ちそうですが、よく読んでみるとほとんど役に立たない、という不思議な雰囲気です。イラストも楽しみながら、気楽に読んでください。